に ず・・・ 吟 杜 牧

龍

成

平 里 啼 11 7 紅 映

ず

吟

じ

の百

たる平こ賞てこまあくま °四成とでいれすのなさ 今月廿のつくかが震るに 年廿四大つとら `災候 の二年切もも大派かと-受日度さ `言き生らな江 わ

者日「痛実ま私た一まの の一昇感かす共幾年し春 方に伝しら゜の多余たし は無審て目自前のを 過事査いを然に問経 去終会ま逸の立題過

し去 いをっろり

最了一すら移ははし 高しが[°]さろだむて のま ないかしお

精流

月

号

岳精流日本吟院

し会え千修てのしの都会 六をでで様で自· °上こ活クむ各ま `し審かト信いにさ席 `すのす主演そにれ発1多区し次て査っををま言せ上 °吟°研奏れつらなルく連ょのお会た掴得しうるで 牛一あ 詠一修・はなの活でのコラチり――んたたに熱は 振審で剣、が活動の方ン °ャま日刻だ人 °言心 ` 一年る 生教 平一場 り査の詩会っ動が健々ク 成っで を会研舞とては進闘の1 十平所 聴「鑽・しい全めと挑ル 九成属 いでに自てるてら一戦へ ての於作のと自れ千 `の 年廿の 新て自層確分て代そ 入四新 会年し 痛しも詠別信自き田し新 7,1/1 感い言・研し身ま一て入

日来もへとだ審過 あたに申切長 ん ンとた員る吟やい吟た吟連員過で今と年ののいよ査を審げだごしな谷審活五 「バこ次のこ会詩ま力が友コを日行か内のがヒうっ会忘査まい苦上る川査気十 - 1 ろ第皆と等歌す向、のン含のきら定一多ン自て場れのすた労げ審龍をを 参さる査篁ごこ名 加れ次 `先担のの 者た第ご生当場多 全担で指に頂に人 員当す導はい結数 のの°を長た集に ンす程だ人、「わな両ス °もっ、もこれご先 皆皆併頂時 `しの 既たそうれぬ指生 様様せき間奥たぼ にとれ一で昂導の て心に村感り 山 感ご`かわ精じ-か 四思ぞ歩い揚が時 謝協会らた曄で千 7 月いれのこ感あ間 7 廿ま得向うがりの 申力運感り先し代 進 一する上一た しい営謝懇生た田

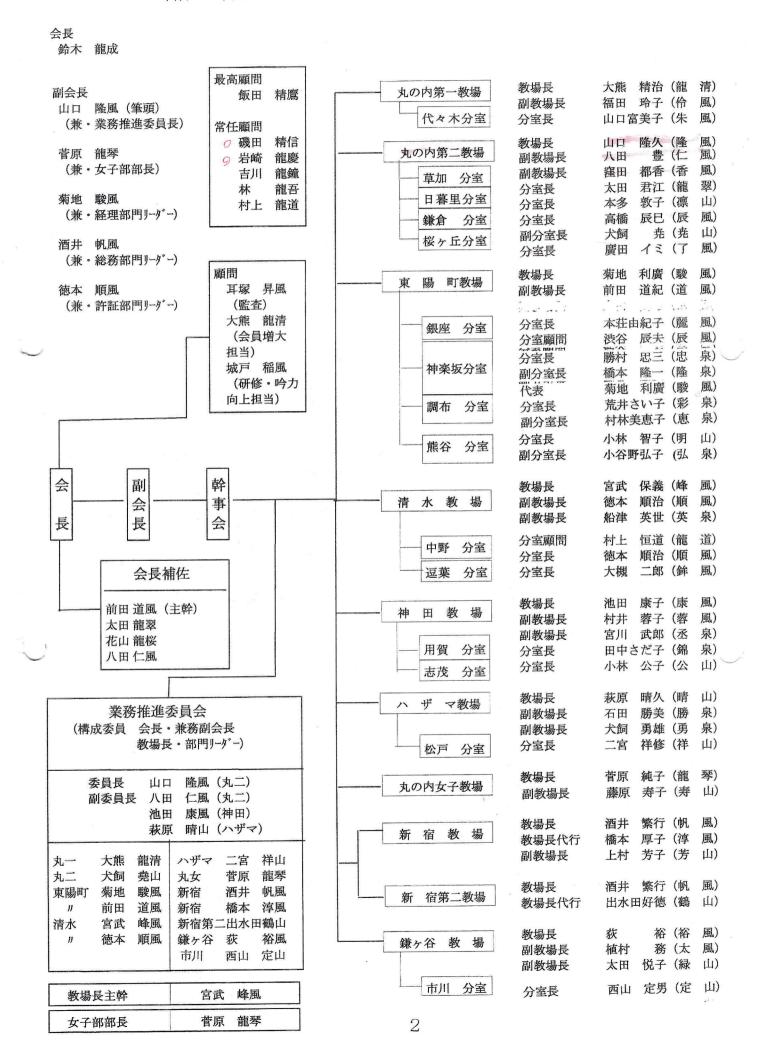
> てうま "十 全層新図分し 皆十年(四ま分 ま嬉す吟月六て別しっ室上年さ七生十十すを因の琢 °の迎で `よ様漢ら六いし °をの月 , 研いてがげ頭ん%十八三と会にで磨常活えす大い子詩 , 区 りい一学二廿ワ修会いもまののご九%名ご ま言詩びグ四ン全員くうし「教合名」 一个体前 し葉吟 `ル日モ員を年一たち場計〜四三年〜述 ょがを吟1~7参迎と歩とよの百十年十生四の う行やをプ日**゜**加えし**、**おだ様三三生一九月― きっ楽別~でにてたワり一子十%十%名一一 交てし一のまよのい**ン**、紙は九^〇九^〇(日年 う良む温一いる教とモ今上如名六名三六現生 日か"習全り内場思ア年で何と年〜年%在〜 々っ機会国ま容のいではもでな生十生 をた会一吟しの活まの各ごしり廿三廿 `で年 過一がと道 よ充性す前教挨 よま三%六二見生 大う実化、 *進場拶うす名〜名年てし を・申。 ′〜五〜生み区

°変よをのク分 `全`すのに性 °場新化そど楽中お解ラに づしにれこし学聞説ス分 くい取ぞのい生き他委け り会りれ教雰一しの員て が員組の場囲なま担一一 自のん工で気どし当を上 然いで夫もをのた[〜]選級 だくてもこれで、 とるいを、醸言。をんし 生教る凝新し葉「行で(ま場とらしてが卒な教五 れは思しいい行業っ場・ て `いて会るき後て運六 い切ま教員よ交はい営年

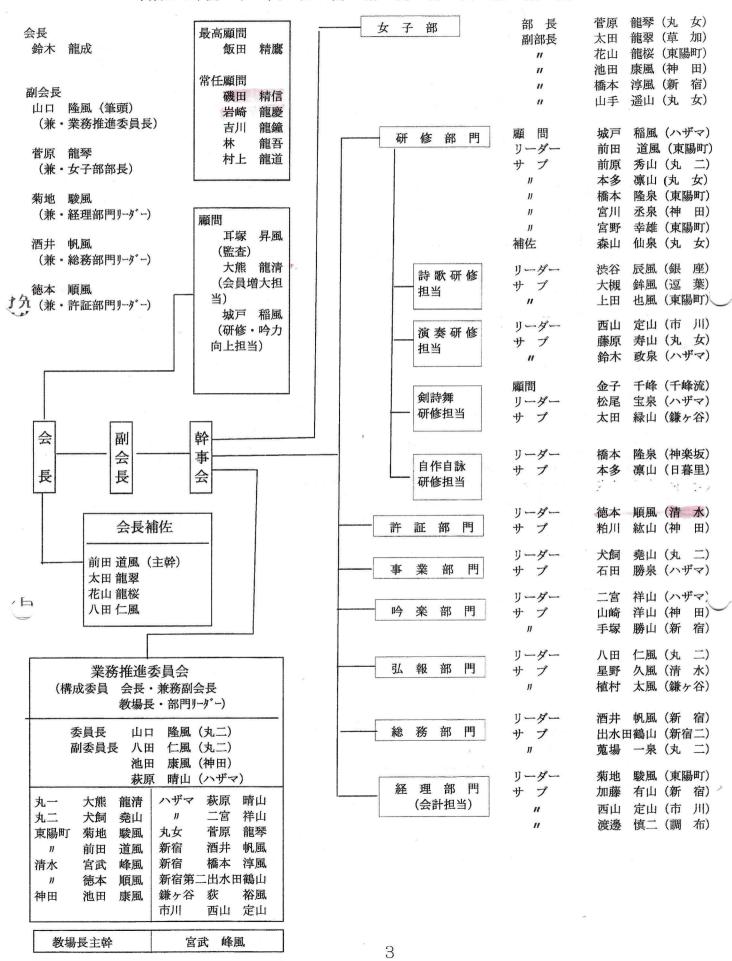
る磋す場をういいるへかの



平成24年度 千 代 田 岳 精 会 教 場 組 織 図



平成24年度 千 代 田 岳 精 会 部 門 組 織 図



菅原 龍琴

女子部部長

泉

さにとま代

んは思しか

に程いたら

つ遠込が漢

いいん `詩

て私で詩の

いでい吟授

けしまは業

るたし男に

かのた性興

とでしの味

心 ` `もを

配ど音の持

志正 茂夢 藤 華

泉

春 0

伝たれごいひえ曄やにはての ま指評とし `か近 おす導価りて長ない春五審 。はをが開谷花東の十申 同同鎌同新新丸ハ清目 宿宿のザ水出受今頂日催川嫁郷賑名し と審後い々さ龍姿神わを込 う者のたのれ篁が社い超み ごは励人研た両行水がえ者

。先き交溢たは ざ全みが鑽

に奥も下

伝で思寧 `一お村の通会初今

昇しわな高人迎精華り場め年

上升滝井日清齊中鵜三柿森川以西町北岡出手大中望い員と多を緊生交会れ 川沢田吉水藤山飼須山田口上山井尾部水塚倉内月ま見なく堂張をう し事る `々の審中幾原 H

な吟ななるは聴の

今現吟に指まこり友るがと震きご月しまの趣て学

中格と丁露

-二藍春舜響新華靖輝以理準童九定澄北禎鶴勝明博輝たなこまと中査で組宿 名泉泉泉泉泉泉泉泉泉泉泉名山山山山山山山山山山山。合とた披

初

压

0

内

第

里

市

11

谷

新同同同八神同東同同同丸

ザ田へ陽

志楽

茂坂

マー神町同日

宿

以

りなのが調わて・え来詩のす素さが軽っっ 心帰て恵た謝号ご口らが 。いを指先の `四 `い問らのっあ三まる吟難る晴に稽いてて詩て代私 、かれそた許導生四ど月今事題勉体たる気しよをしよら愕古気行い吟詩田は 、れしさ下並年う廿はと点強得詩本品たう始さうし然を持けては吟岳 二そ、はを・吟をが。にめにないと重ちば、前の精平 指勉りて楽にてれさび間に 導強といし加いたいに、か日の漢、し余の参重そとた吃感吟しねでよたの第会成 ごし詩まいえま事ま緒未合、矯詩正て韻発考きし前以驚動をまる入いだ職一丸廿 鞭で吟す環ですはし先熟格初正をし居の声にをて向上しに聞しに会 、大場歩の年 謹行を °境教 ° 、た生な致伝に覚いる引法しな「き 、た打いたつし程きでを内二 おき学この場有身お方私し審励えアうき・なす詩な人のたて °けた度な少踏第月 願たびれ中の難に陰がをま査んきクち方節が °吟気並でれい先自のの声しみ二友 いい、かで吟う余で親岩しをでれセに等調ら云は持みするる生分で知で習出教人 致と人ら稽友ごる「身崎た受いなン `にの `々ーちに °ととやのす識漢いし場にし思とも古のざ光泉に先 °けまいト私注会先」節に吟し共 `先い °し詩興まの勧 まっし初が皆い栄一な生入ます事がの意得生と・切詠かに身輩いとかを味し門め すてて心出様まとのっ、会し。が取一し。に書二りがし詩震達加こななをたをら 判れ番な語教い声替出、吟いの減ろくぞ持 いのに来にし感雅て山かた

実いずご来

りこで 昂のし四 ま日た月 りが °甘 ま近四二 しづ度日 たく目は °にの つ審小 れ査雨 て体の 緊験降 張でる 度し肌 はた寒 やがい は `日

初 伝 審 查 を 東終 陽え 町て

餇 輝 泉

後す詠、導しのまの事らグえ、指にたで世味お生 とるが何下て度す励かのッ、真導二 まと練タ汗似と もよ出時さ夢 し」習りびを吟 宜う来かいの雅 °でしっし友回 し努ま自まよ号 受そいてし `のの く力す信しう一 けしつ」ょ身方詩 おしよをたで泉 顧精う持皆すし なてま°り体の吟 い進にっ様。を が教で家に中吟の 致し、て方こ頂 ら場続族な緊じ日 早のくにり張かに して夢楽のれく 四先か内、したは ま参でし心かこ すりはくをらと 年生 `緒家てを まな奥忘もが 目方どにに `確先 うし帰声り生 すく深れ

0 お 力 7 KZ

し出講言っ ききて外吟句何全と一 礼のまた 願づこを先しり省た来評葉吟そまな節出じさ度力の今 るをがじしえが調のららとでこ回 、み こ戴はるてずらや時れに無取との ときっ際審での語にる深くりで審 でまきに査し歩句はよめ繰組し査

°吟チC集詩しまの教

?ェレヤョ。 なッコしを文た、な 、一頭の。今し ?ェレ中情詩しで本

時をダ練に理改まで

もし」習描解めで吟

場たをしきをてにじ

所り携まな一素増な

も `行しが字読しさ

すしり口がた行の Iう `返みたは のたしを終 で °た大わ 早こ吟きり 速のにく 練ごな開:

習指りけ を摘まる 始はすよ めすーう まぐとに

まる す頂 き ごを 支百 援指 宜し

いつれ申輩た し努かしや諸山ま まめら上吟先ほす すてもげ友生どと °行更まの方の きなす皆をご今 °様は指日 にじ導ま 心めとで か教ごの ら場鞭三 感長撻年 `を半 謝 と多頂に して おくきわ

わ歩したら一をてい げ 新元 宿気 harmen harmen

藍 泉

`考こ持の会た遠

りな藍るり力そとて は第事な ん書に友く気の まい泉ほまにの思、吟詩二のか復なきものさには高 すよのどす次詩っとの吟教幸っ帰にが拘名れな四校 °第人てて方の場せた後か届ら前まり年同 な号み自にのおもは無のにもは心きずさし 人をを然捕人り雅まい方 `の `の `病えた半での 生頂増のわ生ま号だ生に出の吟支そ院十°年す友 できす素れをすを途活も席 、のえのに分当ばが人 あま藍材で想が頂中は出だこ方に温何に時か、に りしにでいい漢けで考さけのはなか度覚まり入誘 たたあ染く、詩る息えせは仲なりいもえだも会わ °やまの吟の段切らて殆間かま思励て同休後れ と名かりをず心階れれ頂どとなしいまいじ会間 思前り、感るをでしまき欠共かたやしな教をも入っにた古じ事味はたせ、かに上。りのか場余な会 て恥くくてのわなりん今さあ達 が寄っの儀くし °でずるし どせた吟な病た なお魅いいし

ら頂めに意 難言吟でくまつ識今 くうをすこしれし回 お指 とたてての が『重い受 深言導 い葉し 出初圧ま審 感をて 来めのせに るてよんつ 動頂下 かっうでい を戴さ 覚しる と泉なして えた先 不一もた ま時生 安とのがは に言を しにか たはら なう感日め っ雅じがは そ唯理 た号は迫余 のつ泉 かをじるり

泉 日を 暮頂 里く Vi 柿際 山し 7 理 泉

ばがした吟まの父剣特てし頃 か無たらがでまも舞設くたで私 りく 。是大見ま好、舞れがしが し非好て何き詩台た、た初 や誘か詩きい処だ舞がのあ っわし吟にまへっが作でる当て とれ大をなしもた行らす日時詩 詩る人覚った行のなれ。父は吟 吟のにえて°かでわてそが鹿を をはなたし私ずしれいの城児間 習カっいまは最よるて城山島い いラてといそ初う処詩山ににた 始オも心大のか、で吟で連住の めケ仲に人時ら私しを偶れんは てや々決にか終達たは然てで十 も民機めならわは°じに行い歳 めもっまの 家謡会まっ詩りそ

雅 本 頂 け 神た 楽幸 坂せ

曲 bears. 靖 泉

げ皆しで大らるみ励の事い重 ま様です切し健をさ方がまな四えとち日もかい すに下°ささ康持れ々あしっ十てのを々少ら学 心さ特をと法っ本かりたて年い無とでなで生かっにお、とた当らす。、前すいり」ノナ時 有かっにお、とた当らま `前まいりしくす時 う感諸回らをさが幸がたの肺 、今だ時っ ご謝先温せ愛をいせ出。為上過 ざし生かしす保たでる今に葉労 大吟は理日て `くたる持らすよで `全と 切道、数本い 諸熱い人す、。うは会部仕 にに若系文た 精てかの化夢 しお先烈気とる腹同に諸話摘事 た礼輩な持人詩式じな先も出上 `っこにを し味たと接思 ごちと吟呼よっ生出のの

申吟指でのの吸うた諸来病無 たわ時ですい時

し友導一絆素になと先なを理私いっの一る出急 上のを杯の晴よ悩激輩い患がはとた気杯機しに

っあ受場精そしの句のしスとう 中りけに会しまはに後たはのた社 `参会てな良誘楽が持誘び友 良し色加詩四気いわし `合いに会 いた々し一年持なれく根せが一の °なてそ `ちと `一っまあ詩ゴ 意真し宗で、今杯かせり吟ル 味面て家の大かやらん `同フ で目発信入変らっの一一好や 心で声条会不思て吞とい会懇 0 洗熱練一で謹えい兵おえに親 わ心習真あ慎ばる衛断い入会 れなと善りな酒とのりえらで 来 は るご始美ま誠がの私しそな先 自 毎指ま一しに飲殺はてのい輩 U 日導る一たよめし詩いセかに でを教岳°こる文吟まン一会 よ

有ごおる いか で方楽ま十こ報廿切 難指世為何とら素頂にしし年とで年れそるの う導話、時願も晴き詩くたもが知のぬれ事事 ごをに先もっ楽らま吟続が経出り夏までに情 ざよな生私てしししをけ、ち来 いろっ方は居くいた教る今、ま神勝過詩り ましてを電り詩雅!えこ回すし楽村ご吟残そ しくおは動ま吟号最てとはでた坂分しに念の たおりじ車すとを高頂が何に。分室て対な他 。共大のき出の七心室長いす思の 顧恐め椅 に事喜、来事十ににのまるい都 い縮皆子 申に様を 生にび本て情代決入呼し気を合 き持で日、もとめらびた持しで し存に使 上じは用 てちすは確起なてせかがちま途 °雅りこっかてけ`はし中 行、 げま `し 号先らてら頂を平諦たで ます色て きこ ま生ずい何く区成め すが々い たれ

有の すままた支お長ん多しさ奥幸を じ感た査た 難ご千様すし 。援友先が先たせ様せ思生み謝事ま私人 がぬり昇な 沁事ま伝か

に私まと 有取自し発 L か 難組身た輩 5 うまががの ごなご、ほ 有 ざく指今め 難 < いて導後殺 日感 まはのはし 傷幕 しと趣雅で た思旨号こ 面か うをにこ た 三し 次踏恥ま 須ま 第まじで でえなや す すていっ °吟よて 泉 詠う来

う健代おがた私に達生入生。てとでうき**偲致、**でを前ご康田願、。に、皆は院を早頂同ごとるばし心受、で ざを岳いどまま絆様じと亡くき級ざ、事れまかけ何と い切精申うだでののめ悲くに `のいこにるすらさとて まに会しぞまも深遠諸ししは慌弟まれ精思 °有せかも しおの上宜だ力さ路先い `久しのすで一い吟難て導吟 た祈益げしごをもに生事葬保く関。良杯がへく頂いず り々まく面頂し拘 、が儀さ日係思いで致の思くてる さのすお倒きみらま続のんはでえのしし深いよ下事 °導を有じずたき翌を過日ばかたまいもうさの て発 きお難みの先ま日 `ぎ暮本と戦しおよにり出 頂展 下掛う知暖輩しはそて里多思後た志らな さけごりかのた柏しゆに先うの 七き い致ざまい方が原てき入生ほ暮 ま皆 す様 ましいしご `会さ本ま会のどし みとし審っ

雅

号

东

頂

11/1

ザて

7

清

新

命 速 1 あ 人な る のる 場今 情 け戦 には に後 吟渡 ずれ を 見 D 守件 悪 らき 水言 れて の問 て吟 う橋 い会 るの

名の日訓習一結乾決道国 ャけとが合開練で木しをま館吟昨 ン 、く同吟催かは曜て度りで剣年 ス吟にじコのら発日優るま開詩東 で力新吟ン東始声の勝りし催舞日 す上し題ク京ま `三をでたさ道本 。達いで I 都り口時目挑 。れ大大 健に会出ル連まのか指戦吟 闘つ員場に三し開らしし題千は災 をなにし港十たき行ままも代十で 期がとま区五°方なしす昨田一中 待るりす代周まとわょ °年男月止 しま 表年たいれう五と子十さ と記、うて。十同の一れ また基 すと礎 し念六基い毎五じ出日た °な力 て大月本る月名「場に いを 廿会十の練第団桑が武全

武

道

館

合

コ

有宜ういり諸 ぎのも昇ま 難しにのま先鈴に連の伝し桜 うく自です生木苦続で審たの ごお分は。 、会労で入査 ざ願なと私先長しす会に四も いいり思に輩始て。し臨月散 ま致にいはのめおいてん廿り 、りま四で二 しし歩まま皆 たまんすだ様ごまだ年ま日青 。すで。まに指すににい、葉 °ま名だ深導 °ゆなり東若 いに泉く下 りりま郷葉 り恥の感さ 止まし記の まじ雅謝い めすた念候 `が °館と すな号しま のいはてし 息緊早にな でよ早おた つ張いてり

雅 7 茶 頂 11/1 ザて

7 滝 沢 泉

九七六五四優入六優三二優三同優九七五四二

-

11

H

野川九

嘗

崎

秀位位位位位

月ま廿たし区ン東 廿す一°次にク日

名おの三1本 宫遊徳萩横八二田片和小宇~板奈宮本小菅山小波入加池森中日 は目方十ル大 五出々五°震 野佐本原山田反村山栗谷田十橋良川多林原手柴治住藤田山野 月とが名満災 のう入、をで 幸竹順晴裕仁奉菊寿美弘香名禮應丞凛公龍遥藤舞章有康仙陽四 都ご賞港持 大ざの区し中

会い栄にて止 へま誉五二と

挑す。を十年な

港

X

連

J

1

ク

東

陽ル

町に

片加

UIL

寿

風

参

7

山山泉山山琴山泉泉泉山風泉泉名 丸新神丸神丸丸新新新新神丸新 宿宿

女宿田女田女女宿二二宿田女宿

張か合、待ン

しらは又とク

東ハ清ハハ丸ハ調東熊熊銀 ザザ ザ 陽ザ 陽

雄風風山子風幸泉風子泉泉

位位位位位勝賞位勝位位勝月

H

町マ水ママニマ布町谷谷座

だかた平にい舞 て時大朝い I つし 。常 、様台当お間変早ラル千 謝呼 教頑様分このば最っし 場張 `のれ気れ後た満な心とには目りがない大に代 のり相持か持たの様足んをに `魔 `ま心プの切初田 先た手っらち時成な感と保かタ物いし配レがな出岳 、つたでッ苦お場精 生いはてはでは績悔かかつくイ ミシ手手と会 、発いら無様無ム絶何 スャな伝いに に思分るも杯運表がは事自事才句が 、力っでがの残程終分二Ⅰし起 の1私いう移 謝ま自をとし良際り遠わに分バなこ なでにを不り いす分十もたか。まくり言間しいる いしは仰安 。っしし の分っ `まいをに様か 様た八せの港 しご吟にと た番た不し聞終なに分 に。時つ中区 °完たかえら誤か と前半か、連 ま指に出練 NE だ名 全がせるな読ら 緊日集り接コ す導勝し習

焼しし

燃、ま様いしな

'様ない

人人人人人人人 賞賞賞賞賞位

荒石上橋森井城 井田村本田田戸 M

彩勝逸隆之舜稲 泉泉夫泉助治風

調ハ丸東丸ハハ ザ 陽 ザザ 布マ二町 77

吟

甸

連 閉

吟

I

ク

ル



と前

威を

"頂て切し

いるれて

方思派を私導教たまこで りりと城うて 記吟ル のっな期もの場次さと何当でま勧戸真頂昨念じに去 ごて吟に漸賜長第かのも日出しめ顧髄き年す 指お詠今く物はでのみ考を場たも間も吟三べ思挑 導りが以吟とじす予をえ迎をがあか判歴月きい戦月 をま出上の心め。想考ずえ決恥っららも 官す来に面か諸こをえ普 `心をてコぬまこ日せ山八 る精白ら先れせ吟段何し承 `ン未だのとぬ岡日 く今べ進さ感生もぬじ通もま知一ク熟一詩な初鉄の お後くをも謝方会もまり分しで旦しな年吟り入舟港 願も努重見申の長のしのかた度はル私、のま賞作区 °胸たにに未会しの「吟 い尚力ねえし事、とた平ら 常な し一を `始上細顧な 試め出鈴だにた栄金詠 。誉剛コ ま層し人めげか問りそ心い しらて木詩入 すのた前 `まな `感のを状 のい見会吟会 に山ン °先いでこすご萩激結保況 浴しク つもて長とさ

もあは

言せ

しを1

港 X 吟 詠 コ ハン ザク 71 ル ニレご 反入 間當 L 奉て 幸

生と立れ °指原し果つ下

港 X 吟 詠 丸コ のン 内ク 第1 ニル に 森入 田賞 L 順て 泉

入第 賞三 し十 て四 П 港 X 吟 詠 I 1 为 Thursd.

1

陽 町 幸

心し習り前心分起

°並岩菊 び崎地 に先東 教生陽 ·MT 場 のご教 皆指場 樣導長 に頂 感き顧 間ま憶 申しの した磯

くた年 二のの手 しこ担かで私杯 ④③②① 工果まか 上耳田 ごい間五〇復勉伝ままの当けしの吟と ④③②① ッをしけ花げ塚先ま 指とは年分習強いたし句とてた「じい懸詩流声ク大たら山ま先生ず °れ先す生 °背てい、題とたにはの大イ台私た生 景発たこ一満処吟十吟きンでの時か を表詩れは足でじ分じくト試考 `ら `た表方会はしえ即コ ては `ン み`参ク る今加し 事ま申ル たで ででし参 か届 しの込加 た研みを 11 修を呼 た チ成しび

んびて

来でそにじ出自す岩

がいっ古時てだにの

いたて屋間ずし特は

きア感さがにの別新

本バをとっま庭ご襄

番イ述別たし上指の

にスベ室のたの導っ

臨で合にで 。」を寒

こめまき教し詠い」とてし、場ていたで

が自た互で当方のし

出分。い同日にでた

む初い行

、その頂梅

`ド想んあい...な鳥

`たのし頂が吟たっ命情統はポ舞 ししの たて奥 かいま か

学し歌は李し びた研渋白て自か現を場 、五修谷作お分 李句会先っりと 白ので生汪ましの中、か倫して 心の昨らにたは 勉句私声る今精

信り階初ずがのてとや て点価

`な °が観入ながが励らはつきだは

一ざのごもそれ的賞場あ本ま誉今もくと

ごし二頂湧次かをて何せ上めれ

さ先しプ思れとイ。

句い内助のした評さ所り当すめまり口聞態

をま第言がての価せでまはたらででをい度

披た教いいのな頂頂のん手のてたたけい姿

°場たてスときいハでいおもま

の岩来テい `たンしの世 `に

皆崎まッうここデたか辞仲教

ん生たへいでにもと下と内で

本、。のに一よ付こ手思の先

自なつりけろなっこ生

つ有さごのま段めにあか、だ仲自吟との審まもこ詠吟番信が崎吟

た難ん指よしをて一の自自し間分じ、対査し納でい題まが、先じ

なう他導うた上客応様信分、かでた大象でた得頂合ので持出生た

、だ間場

`し開てや

るた勢

この `

とで発

にそ音

注れ等

意らも

しの評

おて期見勉イてな田 顧お間習強スおが先 いりと期をトりら生 致ま決間しレま教の しすめとてしす場下 、決おニ°とで す今楽めりン家は研 °後し `まグで違修 とんそすなはつ部 もでの。ど、た門 を一年お贈 毎教詩の 官行後 日場吟お 強でのを一回一 しき石

Y 初 H 80 7 会場 0 詩 K 丸吟 向 のコ 内ン 力 う 第ク た _ 1 80 ル に 7 村 R H 逸 夫

す

-

0

1

変

わ

ŋ

Ú

n

L

ま

す。

導考成間位 `をを

をえ長はのボしし前

葉 に出賞こ 背場出の 中す来度 をるまの 押こしコ さとてン れに感ク `意激 | ま義いル たがたで 自あし 己るては 研とおか 鑽いりら をうまず 兼言する

と感もがポの台いだっみ 配てを仲一しのき駅 礼れ 一もっあ をるま加外日せたり百自をな鳴ケ高によ、くる順しいし間度て番しに 港 申諸ずせはにず。、数分億くりッさ出いもりと番なたたとも聞がて九 X し先はず雨な、ま多名のえ何始トにてようし、がが筈。声声い来出時上生、帰、っ舞さくの席たとめか合行自二て早近らのや出をてるか集 吟 詠 °かたらわっ分番急やづも詩はし出いまけ合 げを普る体た台かの吟に コ の自入詠戻あ吟が出せたの目い出い出をりにしたでたの まは段こ調 ン 端分賞がつくじ、し気。名だで場た来吟緊別でがは。約 すじのとも 神ク にが者終たこ終手たにま前っ自者のたじ張室い め練に気 楽! れえの °なずがた分がで てしにな自出付で 諸習なに 上呼でわ 坂ル 。の並舞 でた詩スっ、告 みて行い分場をい がば舞り 先のっな K 番ん台 たいきのの者済つ 終°文タてマげ っれ台 輩指たり 橋参 "打 °た交が番のまも ので裏 たるが成 わ何を1いイら 方導 本加 何、互気に吟せよ っと見トたクれ 所いに 'と一績 にに ち L にた行並。つ たかるの詩をて と暗にになを 厚当 感は杯発 降て か記練なる感自早 の満こ伴文自、 くた げ 激予に表 泉

8

の想なが

おら

だ足と奏を分舞

で前こすで良 様 方早すにの °しい三 にく ス私力まの人 混か テがラいかの 1、オま、中 じら り声 ジ人ケしでの 高 で前でたす三 °が位 詠でも 蚊ら のか うそ絶頂トで 鳴に 事れ対くロす なもにとフ く詠 ど大歌嬉ィど 様う 青勢えししう な分 天のないに喜 声室 しの の人かもはん 霹達 つの喜だ かお 麗をたでんら 出姉

ご上塚吟と表をて研 どーげ先の思の聞お修 う緒ま生仲っ場くり部 ぞにすに間てがこま門 宜精 °はにおあとすで し進吟大感りるが[°]自 く致毒変謝まと上俳作 おしにお申すい達句自 顧たつ世し°うにも詠

恥

ず

か

L

な

が

5

6

熊三

谷位

和す

栗

美

いいか話上重こつ句 をて広然ず絶まいか けにそ目ね 申とっにげねとな会俳私見吟げにる句ずでら出る聞れをて し思てなまてはがで句はたじ力力こ、会し親場こいな気三 `有り仲'`いたをんと誤場た切にとてりに度 げまりお °先難ま間を千もつ抜でに読の °なあが頂にし目 ますま礼特生いすの担代のもきし心を雰私心た大き納なの すのす申に方こ "評当田でり `ま掛し囲自得っ事 `得が挑 と発価しのすでまいけな気身をてでそしら戦 °すっままいに気頂`あしま °すすし、のをき先るてす吟し 出ぐがたそまつ、生と先がずた 来正、。しれけ大方思生、る。 れ面肩本てなた変はいのや訳公 ばを幅番堂いこ心じま指はで園 採見にで々こと強めす導りす等 点据足はととはい仲。を仲がで 表えを自吟、 `思問 受間 `

出追り詠つすでデタた せいにっと。愛ブ食ら

ずつ声て気信車猫を?

悪いがしに号運ト作て

戦た出まな待転ラり始

苦かるいりち中ポなま

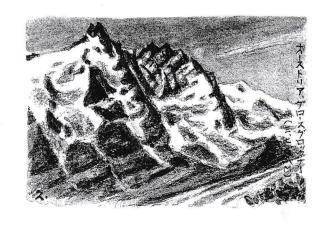
闘なよま、等にンがっ

直場てはのそ違て

分先たる 昨ス量して で生が様以日テでた今前 もか 、に前の I 思 。回回 練らコなか事ジわ名はの 習厳ンっらのへず前七コ 不しクて、よ向大を位ン 足いしき少うかき呼入ク を指ルたしにっなば賞し 意摘のか声思て声れをル 識を前なはい行でた果の し受のと大出っ返時た時 てけ日思きさた事 `すは いまのっくれのをま事次 まし練て前まがしさが点 した習いにす `なに出 た °のま出 °つが感来そ の自時しせ いら無まし

会がでりは言位 は通 しとにそも横々嫌つ詩も 頑良も夢 `っに出脳り副や出て °なの口にとがい吟す 張い `な次てな来トか分らなおまりおを並大ら詠で 初 りも人の回いりれレも室なくりだ、陰隠ば声れっし何 X たの前かよるたばにし長くちまま出かしれでまてたで 賞 いででなり今い十なれのちゃすだ発、なる詠すし 丸を とす上あ一日ね人るま日ゃ!が高時そがとう°ま今ど の果 !音点れらちのそいでう 思ね手:般こ等中事せ頃! 内た い。にと二の々、でんのままま。如何というな場 勉 がになもょでこ `はし 女し 部頃といし、お慣強 まま詠 すすえ なで夢えょま言れす のすみ五うた葉るる ! また で°た十 °緊でわで 。す時 多 張すよしす。! よ す残い人 車は °念な中 H す 1 1 るそ やな事三 bases of the last 独気 はのを位 事の 演持

をきうすでで堂にらた しが自精でコいいで んを 着本先私音し は今で保学い番生の程た当まコ分一すン `ま 亡回くっぶてのの一が、日しンの杯。ク先し当 きのれて事吟時吟番気前 `たク吟頑い | 生た日 主入る吟とじに声不に五私 一力張まル方が駄 人賞のず練らはが安な人は ルをつの出か `目 `でる習れ不耳ならが一 な改て自場らそで っ一し、すた安に点ず男一 んめ日分ののれも た番ょそる様や残を、性四 だて頃に機ごは と喜うの事な緊っ練出で番 と自の出会指と元 思んか結 、気張て習番しで 心覚成来を導ん々 °果そが感いし直た最 をす果る頂がでな っで 引るを事いあもど てく がししがまて前の後 き °発 `てっなと With 感てま無し下にでの 激平しくたさな却出 締そ揮そいてい思 まる を常た落のつつつ番 めのしれたこ勘っ すの 生心。ちでたててで



水) (清 星 野 久 風

°lt

場流 代計

がじ

二え

位て

でそ

もれ

とな

はり

全に

く手

想応

定え

外は

てあ

°って

ま

しっ たとが選決 催十な また選 。競二抜まこさ八っ昨 すとにおい年さりのれ日た年 、大ま(岳 伺漏目大越れ つれ出健した千会し日精直 てたと闘の八代はた 流前 。サ吟の い皆うで挑名田 まさご次戦とか会 ン詠東 すんざので `ら員 ワコ日 °もい方会幼は数 ーン本 **捲僅まがを少昨で** クク大 土かし入代年年出 か1震 重のた賞表部各場 なル災 京来 °さすの教人 ががで れる小場数 わ `中 を差 期で で三止 ま強林か枠 開月と 待あ し豪君らが

H

感諸偏た色 しつ 来今謝先に吟々吟たた吟 る後申生教力考を よはしの場アえ始 う 、上ごのッなめ 頑無げ指酒プがて 張意ま導井をら六 り識すの・素調年 たの 。賜橋直整半 中小 物本に出 とに で両喜来結 思こ あ先んる果 り生でよは いれ `をいう別 ま位 改はまにと すの °IA めじすなし

てめ

一熊◇ 創谷◆ 立分◇ 一室♦

寿

栄

0

賞位

渋岡

谷部

辰禎

風山

銀新

座宿

全

玉

吟

詠

J

ク

に

1

新一

宿ル

岡出

部場

植て

熊周 谷年 分記 室念 長の 集 11/1 林一 開 明催

この合し典な設 ごめず雰分を鈴集 手はコいでに事の忘指てつ囲室は木い桜 作菜サまも臨を日れ導頂立気十じ会を花 りの1し女ま思で得のき派の一め長、 で花ジた性れいごぬ賜まに中名東、四季 饗をュ°らた起ざ三物し吟で総陽磯月節 に飾を入し事こい月とたじ始勢町田十~ 添り付場いとしま十深 。るま廿の常三熊 `けの式思複し一くこ事り七先任日谷 まおて折典い雑た日感れがま名生顧に分 し赤頂ににまな。は謝も出しの方間開室 た飯きはしす気先 `申偏来た参十 `催創 `手よ。特生熊しに` 。加六菊致立 おテ作う私ち方谷上先と会で名地し一 菓1りと達でも分げ生て員厳 `教ま周 子ブの話は `色室ま方も一粛熊場し年 ル桜し少式々開すの誉人な谷長たの

何前いチ、とが、・一二吟、こ私

と日あエ山、割声研に回剣出とに

なのりンの声れ量究し絶詩来がと く練、ジあはるがしま句舞過起っ

う習解がと前の小たしし道ぎきて

まで決効続にでさ点たてコでま空

無大述、るク

理声べその1

ををてのでル

ずくま私そ五

伸出すなの回

びす。り防出

せ強み他

伸と

び声

くをがいンすし前

VE

に止場

留をし

°たに

寿て

栄絶

の後

部と

で思

準わ

優れ

L

く一でかけ

い瞬きずて

っ間ず一吟

たを悩本じ

置ん調る

いで子と、

みたなギ

た処るア

ら、嫌1

Ħ

程

BA

ググ

火木

20杉杉

〇並並

ていに

会ま請も かが夫ハ新第 場すが例全ら進々ザ宿一今 °あ年会どん準マ第、年 第の り通員ちで備 まりがらお委嫌。 すで分もり員ヶB `習 担杉、会谷グ清会 ご今し並会がのル水は 協後て公場発二1

いのちた便検ま田新の

`宿内

し要ら °性討り

三区公 ルル 1上会 三荻堂 ププ 力皆の会は足組プ丸A ++ O =官さ取堂 `しで東のグ 月月 しん組を規で開陽内ル 1= 十廿 六五 OIくにみ手模内催町女し お役は配と容と HH 四一 顧割どし利の決神 `丸 OF_1

A平 · 100 BH 几 年 グ ル温 | 習 プ会 で 開

た会る穏おげンのて物ス 導とて造を よ思会り養こ詩員とや礼懇モ横喜しを懇 ろい員にうれ吟も先かの親ア断んてゆ親 しまの貢とかを心生な言会へ幕で頂っ会 くす皆献共ら励を方日葉ももも下きく場 お。様出にはん一もでの盛う鈴さまりへ 願そと来良 `でつ笑ご中り一木いし走の いの共れき吟おにっざで上歩会またら移 致為にば友道りしてい `が前長し しに勉とををまておま今り進のた皆ての まも強言求通す式らし日まンス°さ熊時 °典れたはしのロホん谷は す先しうめし "7 °生て理 をまと地た集ーテ歓のホ 開し申震。いガル声桜テ 方い念良豊 きたしも最一ンのを堤ル のきをきか ごた持社な °上無後を「会上をの 指いっ会心 ま げくの掲り場げ見バ

加

初

do

7

丸の

の水

内戸

第吟 二行

H

会

別 てッ気用占ろ割の所 へじでてでので分の弘場水 遅波分教残 陽薄邸修笑ク分意めすり差に高タた梅下簡「入で門道の戸当れで室場る東 、理顔によしし姿にしブ橋ク 。はさ単弘れ到構館黄駅日の肝長長水日 をり二終で黄くたたは多入ルさシ次早いに道ず着えへ門に早三心にか戸本 堪で階わ一門合水気ないれ」ん」はかと説館 、 と歩様十暁月の手らへ大 能あかっ枚様吟戸分く観のシのに、つ引明に案建白くの七に八梅配出梅震 °とで、光心 | 知分日たきし梅内物壁 °像名も日のしての災 しっらたパと 花の内に隣のが余の開て 我客遣トり乗本が返 初が波文リスよがビタもいを合し三全すどを女は歴接前集震催花頂水季らめ春湖亭。水く題ーだゆま敷いて名員。う賞性震史しでまが行がい戸に一 戸咲材ルけっでいの向風で高ぞすは災をた全りあと大た出吟年 てががは 梅いのででく頂て方かの心橋ゆー庭被感三員、つな遅が身行 の近楽烈 大た詩喉名りく `がう一行さっ詩内害じの写またっれ 教いし公 使紅をを園と °酒程 °つくんく文ののな丸真ずがた `今高とだ 場とめの を梅幾潤を腰平とよ 偕まのり板斎修が小を駅 -年橋の爪 吟思る愛 入をつし独を日料い 楽で先吟の昭理ら学撮前J カの鎌話痕 行わ L れバも、り下の理場 園吟導じ前公中五校り広R 月寒倉がの

風 途に れ下に終 た調献わ 高べいり 橋かた 分ら H 長弁 が 名 半ち ん等 産 にの 威手 を 謝配 杨 -でま すで E

に1早園の快の 室会万ト々一条晴花去 長員全をか集件無見る が十を敷ら合と風吟四 断万期き公となの行月 け名し `園しっう会九 つにて酒中たたえを日 けゲく看心が。桜企へ てスれを部 `十も両月 くトた用桜幹一丁実 意の事時度施清 す大の半満し水 まて る木面一開た教 なの々小で。場 ず太 ど下は金 一当で $-\mathbf{H}$ 同草 設に朝井絶日は / m 営シ方公好は春

0 花 見 吟

清行 水会 星 野 圃

> でて多一組来れ吟をら吟ド 打締こな ちめとが眼一いく桜へたて声敷ず詠を 上で小ら前応た `」と °いだい休を潤 げ今一、に締。皆一進加たって日スし と同時十広括太朗花行入のたい並タた しの間分がり田々一し間でがたのしあ た花 `なる宴ゲと一たも ` `の人トと 見一酒桜会ス気春がなこ皆で出 吟納と又へト持一 `いち静 行め料桜とのちな吟会らか最 会の理に移蘇良ど題員もに初周一時 を木に目っ軾く季はか次耳は辺ク頃 二遺舌をた作発節矢ら第を遠にデか 時り鼓楽 「一声の張順に傾慮も」ら 春をもり次乗けがシに各 過一をし 夜続の一古ってちしも人 ぎと打ま しけが梅参てくのト拘の に手つせ

が

给◇

木丸

。のの一山

魅 。節迫いき心

幼婦広同研審研副と田 少人報 修査修幹なか総 学管運事りら本 年部部 術理営長まも部 - 副副 寿部部 部部部 し新組 部副榮長長 たし織 間間間 くの 昌部部 部部部部 員長長長 長 名部 新 新 がが 就改 菅八犬山徳酒磯 か編 中橋 れさ 野本 原田飼口本井田 合れ 計 龍仁尭隆順帆精 陽淳 九千 琴風山風風風属信 泉風 名代

中 皆 奥 初 伝 亚 伝 伝 伝 成 一A短 早 偶 海 廿 閉 田俳 E Ш に 吉、歌 原句 昭 र्येत 中 南 \mathcal{H} 游 白 問 君 ØВ 年 坂 行 、教 度 答 秘教 帝 昇 唱本 C本 城 型の を 0 伝 発 審 山 の中 查 どかへす か 大人島ら続 続西れら天 地窪一田自天李天郷で自一李天朱天李天川 定 吟 も由八 六 九 由二 詩九磐選七白二南よ選〇白七熹八白九頼 題 州小題 仏〉也題、

伊◇ 塩◇ $\equiv \Diamond$ ニント 島ハた 動頃 O布 月東し現命では教 藤 ザく三め父 B 分親 陽く在をつ全場鵜 藤東賞テ審がい店の 切ハに先人カ 陽賛 | 査あ馴を手高 刀サは牛でラハ マ入十らにの室友崇町お六平いくに飼正町をプへり染ご打橋 先マ興のすオザ 輩卒味指 °ケマ寿教会余れ一塩にの史教願十成て初入輝雄教頂で挑入客子ち分論第 の業を導入と〇氏場い年で詩月入渡氏場い八十行め会夫氏場き熱戦会の息蕎室氏二 た〜い吟崇会辺〜調し歳五こてさ様〜 ま心すさ分に麦長へ教 熱と持を社賑Bへ しにまは史致慎四布まに年うでせの三まプし上とし二月分すな十とごてご月 しにるれ室譲っ 心同っ受当や た独こま長ら千犬月鎌 な時では時か趣月 しラた品申まさ入室。り月思ざ頂紹入 習としかれ花飼入倉 勧にいての大味入 たス°なししん会 にたらた庵尭会分 まにいいき介会 め以たい社好が会 °のこ趣またの す定まままに 審な で前そた長きゴ °年すすしよ **査り早熱をの氏** 趣の味す旧ご 入かうたがなル の、々心機ごの 味度だ。明紹 何退 °がたり 会らでめ塩、フ 卒職明全。東 先宗にな会主ご と、よ幼治介 さ知す `谷明と れ己。詩る酒 よし治力詩陽 生家昇勧に人近 致園一少生で のの伝め長、所 、生に吟町

し芸との命調

総

本

部

組

織

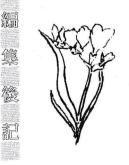
改

編

と役

るもの い超田の復大 `抱高るえも心興会昨 °る大ををが年 と体え齢 過会籠祈二は に力る化 取の大に 去をめり年 最盛た、振大 りあきよ 多り大被り震 組るなる の上会災に災 み今課会 参げださ開で た、題員 加よ°れ催自 い英だの °知 `減 申う地たさ粛 しと元方れし を干少 込百で々るた 集代は み九あへ 一め田吟 を十るの東国 八てと界 し名千応北吟 田出し全 てを代援の道 来て体

吟温いと



 $\pm \Diamond$ 小 田鎌力大回力とでと 浦期し 性まあて流操 第しり即れ参市 ケできしあ すし下場待た 、加の貴谷すなにる見。た手 号。千会懐中公子教。声感若学清読な博れ明 会将代のか、民さ場宜を動々さ水書ゴ氏まる 員来田快し教館ん市し出ししせ新とル(すい で性の諾く室で(川くすていて泉たフ五 す豊記をてか社十分お健入声頂先まと月 場 づ か念得見ら交一室願康会とき輩に な大る学心ダ月 < い的に ` `の映時会 分会°へ地ン入 n 致な至詩先熱画代 Ó 室に少。よス会 し楽り吟輩心鑑小 期もし講いと ましま特諸な賞説 先 すさし有氏おがを 導 待参経習吟健 °がたのの誘好中 の加験を声康

女しが見が体